J I A

平成13年7月13日

中央区長　矢田　美英　　様

社団法人日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部支部長　服部範二
保存問題委員会委員長　篠田義男

サッポロライオン銀座七丁目店の保存に関する要望書

拝啓　　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

中央区におかれましては、区の行政のみならず、我が国における固有の都市文化の形成に尽力して来られました事に、深く敬意を表します。又日頃より本会並びに会員に対し、深く御理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度サッポロビヤホール銀座七丁目店の建物が、隣接地と後背地を含めた形で敷地を形成し、改築の計画をされていると聞き及びました。御承知のようにこの建築は、当時大日本麦酒社長であった馬越恭平氏が若き建築家菅原栄蔵に託して昭和9年に創られた、銀座のみならず日本を代表する建築の一つとして、氏の代表作にもなったものです。殊に一階のビヤホールは、独特な形の梁と柱に施された深緑色の窯変タイルや、膠着力が強く吸音性がある伊豆新島特産の抗火石で精緻な仕上げがなされ、さらには正面と側面を飾る大小十二枚のガラスモザイクの壁画などによって構成される7ｍ の天井高の空間は、ビールを介して人々が集い非日常的な空間を楽しむ類い稀なビヤホールの典型であり、67 年間に亘り人々に愛され続けているかけがえの無い都市の財産と言えます。中央区に於いては、菅原栄蔵が手掛けた新橋演舞場や新橋保全会社（検番）は既に壊されてしまった現在、ライオンビヤホール銀座七丁目店は数少ない昭和初期からの銀座の歴史文化を語れるかけがえの無い市民の財産と言えます。

近年、建築と都市に関わる法規が大きく変わり、銀座は今、各所で様々な計画がすすめられているものと思われます。しかし時代は変わっても、銀座の魅力は、1階にあり気軽に入れるこのライオンビヤホール銀座七丁目店を抜きにしては考えられません。貴区におかれましては、このかけがえの無い空間が、改築計画の中で創造的に保存活用されるよう、行政の立場から出来る限り御協力下される事を心から要望致します。

幸い建築技術の飛躍的な革新と、事業主ならびに行政の歴史を踏まえた未来への視点と英断、有能な建築家の創造的な献身の中に、この空間を生かしながら計画する手法は限り無く存在しているものと考えます。例えば、銀座では交詢社ビルにおいて、また丸の内にあっては日本工業倶楽部会館の改築の際、行政、歴史学者、建築家などを含む検討委員会が組織され、各界の英知を集結して成果を上げております。ことに日本工業倶楽部会館に於いては、文化財に登録する事によって有効活用をする検討委員会の提案などを受けて、設計や事業収支の検討がなされ、旧建物の一部を保存活用する形で現在工事が進行しております。当計画に対して、一つの方法としてこのような委員会の設置を含め検討いただければと存じます。

銀座のベルエポックを味わえる貴重な場所が残されていく事に、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部並びに同保存問題委員会と致しましても、関係する多くの方々と共に、保存、活用について出来る限りの協力をさせて頂く事を申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前[illegible] JIA館
Tel 03-3408-8291　Fax 03-3408-8294